

「地球倫理」という理念が発表されたのは、故・丸山竹秋(倫理研究所前理事長)が「地球倫理の推進」という論文を発表した一九八五年にさかのぼります。近年では「持続可能な開発目標—SDGs」等、世界規模で環境保護をはじめとする取り組みがなされていますが、当時の日本はバブル経済の真っ只中で、世界中でも環境破壊が深刻化していた時代において、いち早く地球の安泰を訴えたのです。

「地球倫理」の理念を簡潔にまとめると「調和協調・共尊共生を理念とする地球人の倫理」となります。特に「地球人」という言葉が使われているところがポイントです。環境問題をはじめ地球上で起こっている様々な危機を防ぐことに国籍は関係なく、地球上の誰もが踏み行なうべき道であるからです。決して一国家だけの解消を目指すものではありません。倫理研究所では一九九九年四月から、中国内モン古自治区クブチ沙漠において植林活動を続けています。「経済発展を遂げた中国に、日本から赴き植林する必要があるのか」という声も聞かれました。しかし一貫して植林活動を続けていくのは、「地球の安泰」を目指す、地球人の一員としての実践なのです。

水や電気といった資源の節約等は、もちろん地球の安泰につながる実践です。日常の中の実践ですが、わずかでも地球を良くする一助になっていることは確かであり、まずは自分から行動に移すことが何よりも大切です。

「地球倫理」イコール「環境保護」というイメージを持つ人も多いと思いますが、環境保護だけが地球倫理ではありません。「地球の安

「地球の安泰」のために 何が出来るか考えよう



泰」につながる様々な実践が「地球倫理」の実践に含まれているのです。

例えば、職場に出勤した際に「おはようございます」と先手で明るく挨拶すると、された人も気持ちが良いものです。その人が明朗な心持ちで、また別の人に挨拶を交わす等、良い連鎖が続いていけば、それは人と人とのトラブルが少なくなることにもつながり、何等かの形で地球の安泰に貢献しているといえます。その点では、身近な挨拶ひとつとつとつても、「地球倫理」の実践なのです。

大切なのは、私達の住んでいる地球をより良くするために何が出来るかという「地球的視野」に立って考え、行動することです。

現在、訪日外国人は三千万人を突破して、まもなく開催される東京五輪・パラリンピックでは、更に多くの外国人が日本を訪れます。日本では当たり前の習慣が、海外の人々にとってはそうではないこともあり、迎える側には、様々な配慮が求められます。自分から相手の文化、習慣、歴史を知り、応対することも、「共尊共生(おたがいを尊び、共に生きる)」を理念とする地球倫理の実践といえます。

このようなグローバル時代において、改めて「地球倫理」を定義すると、「地球的な視野で考え、環境保全の実践を含めたグローバルな倫理」といえるのではないのでしょうか。

「地球の安泰のために」という意識をもって、日々の業務を見渡してみてください。お客様に接する姿勢や、店舗周辺の清掃や整理整頓等、すべてが地球の安泰につながっているという心持ちで、業務に励みたいものです。